

農のある暮らし



農業にすこし興味が出てきた。でも、今すぐなりたいわけじゃない。
 そんな方におすすめなのが、農家の家に泊まって農業体験等ができる「農家民泊」だ。
 農のある暮らしを、のぞいてみよう。

トラクターに乗る 父の背中に憧れて

成田農園は愛別町で100年続く農家。現在はアスパラとお米を中心に生産している。5代目の真市さんは、物心ついた時から農家になるのが夢だった。
 「祖父は研究熱心な人で、父はいつもトラクターに乗せてくれて。その背中がかっこよくて農家になると決めていました」

農業大学を卒業後、二十歳で就農。25歳の時に聖美さんと出会い結婚、そして有紗ちゃん（ありよ）が生まれた。ちょうどトラクターの買い替えの時期。一念発起して、助手席のある大型のトラクターを購入した。

「有紗をトラクターに乗せたかったんです。有紗の首が座りはじめた頃、チャイルドシートに乗せて、おむつとミルクを持ち込んで農作業へ。トラクターはよく揺れるから、有紗はすぐ寝ちゃうんです（笑）」

有紗ちゃんは小学1年生になった今もトラクターに乗るのが好きだそう。そんな2人を見て聖美さんは言う。「思えば、親の仕事を間近で見る機会ってなかなかないですよね」

誇りに思う「農家の暮らし」を体験してほしい

成田さんが農家民泊を始めたのは、「親光的な農業体験ではなく、「農家の暮らし」を体験してほしいから」だ。

成田農園では、収穫・農作業体験のほか、稲わら細工や白樺の皮を使ったワークショップも行っている。「材料は山でとれた白樺の皮、お米の収穫時に出る稲わら。農業の中で手に入るもので、こんなものがつくれるんだ」と知ってもらえたら」

アスパラとお米の直売や農家民泊で、愛別町にしながら全国・世界中のいろんな人との出会いがある。中には生産者と消費者の関係を超えて、親戚のような付き合いの方もいるそうだ。

「毎年閑散期の冬には、妻の実家がある鎌倉に向けて1カ月の旅に出るんです。責任はあるけど、裁量が大きい農業だからこそできることかもしれない。これ以上の仕事はないですね。農業も農家民泊も、自分たちのペースで、よりよいものを提供していけたらなと思います」

無理なく、手の届く範囲で愉しむ成田さん一家の暮らし。農業を生業とすることの豊かさが、ここにはある。



宿泊に関する
 詳細は
 こちらから

成田農園

北海道の自然と調和した北欧風住宅の1階フロアを、1日1組で貸し切れる。キッズスペースやプランコもあり、家族連れも大歓迎。

愛別町中央1112-1
 01658-3-4343
 hokkaidonaritifarm@yahoo.co.jp

Let's Stay!